2023　年度　授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)		科　目　区　分	基礎分野	授業の方法	講義
科　目　名	文法(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160　(8)　時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村絵、瀬野幸子	実務経験とその関連資格	【中村】2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。			

《授業科目における学習内容》

毎回、チェックテストを行う。テキストは『みんなの日本語I、II』、『新完全マスターN3』を使用し、文型の定着を図る。授業では口頭練習を多く取り入れ「話す・聞く」を中心に行い、宿題では正確に理解できているか記述問題で確認する。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、N3に合格する力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I　本冊(第2版)』『みんなの日本語II　本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』
参考図書:『みんなの日本語I　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I　第2版　書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II　第2版　書いて覚える文型練習帳』から抜粋。

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけではなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。普段の生活の中でもできるだけ日本語を使おうという気持ちを持ってください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	初対面の人と簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第1課 「NはNです」、「NはNですか」、「NはNではありません」、など		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	・物を指し示して、それが何か聞くことができるようになる。 ・物の持ち主を言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第2課 「これ・それ・あれ・どれ」、助詞「の」(所有)		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	・場所を示すことができるようになる。 ・場所を尋ねることができるようになる ・所属(国・会社・大学、など)を言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第3課 「ここ・そこ・あそこ・どこ・こちら」、数字「～階、～円」		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	・時刻、曜日を言うことができるようになる。 ・簡単な日常の行動を言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第4課 数字(時間・曜日)、動詞(現在・過去)、助詞「から・まで」		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	・目的地とそこへ行く交通手段を言うことができるようになる。 ・乗り物を利用して、目的地に行くことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第5課 動詞「行く・来る・帰る」、疑問詞「どこ・いつ」、助詞「で(交通手段)」		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・日常生活の基本的な行動を言うことができるようになる。 ・人を誘ったり、誘いを受けたりすることができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第6課 疑問詞（何）、助詞「を」「で（場所）」、「～ませんか」、「～ましょう」		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	・日本語で物の名前や表現を尋ねることができるようになる。 ・物の授受について説明ができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第7課 動詞（授受動詞・貸す・教える、など）、「もう～ました」		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	身の回りの事物の様子、感想を簡単に言うことができる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第8課 形容詞（肯定・否定）、「どんな/どう」、助詞「が（逆説）」、疑問詞「どれ」		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	・好き嫌い、上手下手、わかる、ある（所有）の表現を使うことができるようになる。 ・理由が簡単に説明できるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第9課 「ある（所有）」、形容詞（好き・嫌い）、程度の副詞、「～から（理由）・どうして」		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	・人（動物）や物の存在について話すことができるようになる。 ・人（動物）や物の所在を言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第10課 「ある/いる（存在）」、助詞「や」		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	数量、人数、時間、期間などを言い表すことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第11課 数詞・助数詞、「～だけ」		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・過去の出来事や経験について、簡単な感想や印象を言うことができるようになる。 ・身近なことについて簡単な比較ができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第12課 形容詞（過去）、比較		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・欲しいもの、したいことが伝えることができるようになる。 ・移動の目的をいうことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第13課 「ほしい/たい」、「（目的）に（行為）に行きます」、疑問詞		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・簡単な指示、依頼、勧め、申し出ができるようになる。 ・今、何をしているか言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第14課 て形（動詞）、「～てください」、「～ています（進行）」、「～ましょうか」、動詞＋方		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・許可を求めることができるようになる。 ・禁止されていることがわかるようになる。 ・家族や仕事など、身近な話題について話すことが出来るようになる。	「みんなの日本語I　本冊（第2版）」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第15課 「～てもいいです」、「～てはいけません」、「～ています（結果）」		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)		科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(中級)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村絵、瀬野幸子	実務経験とその関連資格	【中村】2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。			

《授業科目における学習内容》

毎回、チェックテストを行う。テキストは『みんなの日本語I、II』、『新完全マスターN3』を使用し、文型の定着を図る。授業では口頭練習を多く取り入れ「話す・聞く」を中心に行い、宿題では正確に理解できているか記述問題で確認する。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、N3に合格する力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I　本冊(第2版)』『みんなの日本語II　本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』
参考図書:『みんなの日本語I　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I　第2版　書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II　第2版　書いて覚える文型練習帳』から抜粋。

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけではなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。普段の生活の中でもできるだけ日本語を使おうという気持ちを持ってください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	・日常生活の行動を順を追って話すことができるようになる。 ・人や物、場所などについて簡単な描写説明ができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第16課 「～て～て」、「て形(形容詞)」、「～てから」、「(人・物)は(体の部分)が形容詞」		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	・規則や禁止事項が理解できるようになる。 ・しなければならないこと、する必要がないことが確認できるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第17課 ない形、「～ないでください」、「～なければなりません」、「～なくてもいいです」、「～までに」		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	・できること、できないこと、趣味について簡単に話すことが出来るようになる。 ・行為や出来事の時間的な前後関係を言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第18課 「～(こと)ができます(可能)」、辞書形(動詞)、「名詞は動詞(辞書形＋こと)です」、「～前に」		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	・経験の有無をいうことができるようになる。 ・物事の状況の変化を言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第19課 た形、「動詞(た形)＋ことがある」、「～たり～たりする」、「形容詞＋に/くなる」		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	・普通形を作ることができるようになる。 ・文の丁寧体、普通体の違いが分かるようになる。 ・親しい人と簡単な普通体の会話ができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第20課 普通形、普通体の会話		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	・簡単な意見、感想、予想を言うことができるようになる。 ・人の発言を他の人に伝えることができるようになる。 ・相手に確認したり、同意を求めたりすることができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第21課 「普通形＋と思います/と言います」		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	連体修飾を使って、人や物のより詳しい描写、説明をすることができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第22課 連体修飾		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	・どんなときにどんな行動をするか、あるいはしたかを説明することができるようになる。 ・簡単な機械の使い方や道順などが聞いて分かるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第23課 「～時」、「～と」		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	・物の授受について話すことができるようになる。 ・恩恵を与えたり受けたりしたことを表現することができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第24課 「～て＋授受動詞」		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	あることを仮定して、その条件の下での判断、決定などを言うことができるようになる。	「みんなの日本語I　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第25課 「～たら」、「～ても」		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	「みんなの日本語I」で習った文法を復習し、それぞれの文法の構造を理解し、適切に使うことができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	復習		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	・相手の状況についての説明を求めたり、自分の状況やその理由を説明したりすることができるようになる。 ・理由や事情を説明して、丁寧な依頼ができるようになる。 ・理由や事情を説明して、助言や指示を求めることができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第26課 「～んです」、「～ていただけませんか」、「～たらいいですか」		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	・できること、できないことを言うことができるようになる。 ・見える、聞こえるなどの状態を言うことができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第27課 可能動詞、「～しか」		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	・同時に行われる継続的な動作を言うことができるようになる。 ・日常の習慣的な行為を言うことができるようになる。 ・複数の理由を並べて述べることができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第28課 「～ながら」、「～ています(習慣)」、「～し～し」		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	・事物の状態を描写できるようになる。 ・行為を完了する、あるいは完了したことを述べることができるようになる。 ・不都合な事態について残念、遺憾に思う気持ちを表現できるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第29課 自動詞・他動詞、「自・他動詞＋ています」、「～てしまいます」		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村絵、瀬野幸子	実務経験とその関連資格	【中村】2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

毎回、チェックテストを行う。テキストは『みんなの日本語I、II』、『新完全マスターN3』を使用し、文型の定着を図る。授業では口頭練習を多く取り入れ「話す・聞く」を中心に行い、宿題では正確に理解できているか記述問題で確認する。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、N3に合格する力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I　本冊(第2版)』『みんなの日本語II　本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』
参考図書:『みんなの日本語I　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I　第2版　書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II　第2版　書いて覚える文型練習帳』から抜粋。

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけではなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。普段の生活の中でもできるだけ日本語を使おうという気持ちを持ってください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第31回	講義形式	授業を通じての到達目標	・事物の状態について述べることができるようになる。 ・準備など、将来のために前もってしておくことを述べることができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第30課 「自・他動詞＋てあります」、「自・他動詞＋ておきます」		
第32回	講義形式	授業を通じての到達目標	・自分の意志や計画していることを述べることができるようになる。 ・予定を説明できるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第31課 意向形、「意向形＋と思っています」、「～つもりだ」、「～(の)予定だ」		
第33回	講義形式	授業を通じての到達目標	・忠告や助言をすることができようになる。 ・推量したことを確実さの程度によって言い表すことができる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第32課 「～ほうがいい」、「～かもしれない」、「～でしょう」		
第34回	講義形式	授業を通じての到達目標	・指示、命令を理解することができるようになる。 ・伝言したり、人の発言を伝えたりすることができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第33課 命令形・禁止形、「～と言っていました」		
第35回	講義形式	授業を通じての到達目標	・動作や作業を行うときの基準や規範を示すことができるようになる。 ・二つの動作の前後関係や、どのような状態で動作をするか説明できる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第34課 「～とおりに」、「～あとで」、「～て/ないで」		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第36回	講義形式	授業を通じての到達目標	・あ仮定条件を述べることができるようになる。 ・ある条件化での判断を述べたり、助言や指示を求めたりすることができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第35課 ば形、「～ばいいですか」、「～ば…ほど」		
第37回	講義形式	授業を通じての到達目標	・到達目標や努力目標を述べることができるようになる。 ・人の能力および物事の状況の変化を述べることができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第36課 「～ように」、「～ようになる」、「～ようにする」		
第38回	講義形式	授業を通じての到達目標	・初級の受身表現が使えるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第37課 受身、助詞「から(原料)」「で(材料)」		
第39回	講義形式	授業を通じての到達目標	・～のは、からのを等を使って、感想、や好き嫌いを述べたり、し忘れたことを言えるようになる。 ・情報を知っているかどうかを確かめたり、強調表現で伝えたいことが言えるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第38課 「動詞(辞書形)＋のは＋形容詞」、「動詞(辞書形)＋のを」		
第40回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ある事柄が原因で、その結果としてある感情や事態が生じたことを説明できるようになることができるようになる。 ・丁寧に理由を述べたり、弁解したり、事情を説明したりすることができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第39課 「～て(理由・原因)」、「～ので」		
第41回	講義形式	授業を通じての到達目標	・説明文を文の一部に組み込んで、疑問に思っていることについての感想、判断またはそれに基づく行動を表明できるようになる。 ・やってみようと思うことを言うことができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第40課 「～かどうか」、「～てみます」、助数詞		
第42回	講義形式	授業を通じての到達目標	・上下や親疎(ウチ・ソト)の授受表現を使うことができるようになる。 ・丁寧な依頼ができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第41課 「(名詞)をやります/いただきます/くださいます」、「(動詞て形)やります/いただきます/くださいます」、「(動詞て形)くださいませんか」		
第43回	講義形式	授業を通じての到達目標	・行為の目的や目的を達成する「ため」が使えるようになる。 ・物の用途、評価を述べることができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第42課 「～ために(目的)」、「～のに」		
第44回	講義形式	授業を通じての到達目標	・物事の外観から、その変化の見通しや状態、性質を推察して表現できるようになる。 ・目的の行為を終えて、元の場所に戻ることを伝えることができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第43課 「そうだ(様態)」、「～てくる」		
第45回	講義形式	授業を通じての到達目標	・動作や程度が度を越し、好ましくない状態になったことや物を使用する際の難易度を示すことによって、そのものの評価を表すことができるようになる。	「みんなの日本語 II 本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第44課 「～すぎる」、「～にする」、「～やすい/にくい」		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村絵、瀬野幸子	実務経験とその関連資格	【中村】2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

毎回、チェックテストを行う。テキストは『みんなの日本語I、II』、『新完全マスターN3』を使用し、文型の定着を図る。授業では口頭練習を多く取り入れ「話す・聞く」を中心に行い、宿題では正確に理解できているか記述問題で確認する。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、N3に合格する力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I　本冊(第2版)』『みんなの日本語II　本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』
参考図書:『みんなの日本語I　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I　第2版　書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II　第2版　書いて覚える文型練習帳』から抜粋。

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけではなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。普段の生活の中でもできるだけ日本語を使おうという気持ちを持ってください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第46回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ある事態を想定し、その対処の仕方を述べることができるようになる。 ・期待外れの結果に対する話し手の意外感や不満の気持ちを表すことができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第45課 「～場合」、「～のに」		
第47回	講義形式	授業を通じての到達目標	・動作の段階を述べ事態や状況を説明することができるようになる。 ・話し手が確信していることを述べることができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第46課 「～ところ」、「～はず」、「～ばかり」		
第48回	講義形式	授業を通じての到達目標	・他から得た情報をそのまま伝えたり、自分の五感で判断されることを述べることができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第47課 「～そうだ(伝聞)」、「～ようだ」、「～がする」		
第49回	講義形式	授業を通じての到達目標	・他者(下位の者)への行為の強制や許可、容認を表すことができるようになる。 ・丁寧に許可を求めることができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第48課 使役		
第50回	講義形式	授業を通じての到達目標	「上下」「親疎(ウチ・ソト)」の人間関係に基づく尊敬語の表現を理解し、適切に使うことができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第49課 尊敬語		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第51回	講義形式	授業を通じての到達目標	「上下」「親疎(ウチ・ソト)」の人間関係に基づく敬語全体の体系を理解し、謙譲語を適切に使うことができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第50課 謙譲語		
第52回	講義形式	授業を通じての到達目標	「みんなの日本語II」で習った文法を復習し、それぞれの文法の構造を理解し、適切に使うことができるようになる。	「みんなの日本語II　本冊(第2版)」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	復習		
第53回	講義形式	授業を通じての到達目標	授受動詞の動作主と受け手の構造を理解し、使えるようになる。 他者への行為や他者からの行為、相手への希望を言えるようになる。	「新完全マスターN4文法」 オリジナル教材	予習と復習
		各コマにおける授業予定	授受動詞 て形＋授受動詞、てほしい		
第54回	講義形式	授業を通じての到達目標	物事の様子や聞いたことなどを他の人へ伝えることができるようになる。 自分の希望としての希望を言うことができるようになる。	「新完全マスターN4文法」 オリジナル教材	予習と復習
		各コマにおける授業予定	そうだ・みたいだ・らしい たい・たがる		
第55回	講義形式	授業を通じての到達目標	「と」「ば」「たら」「ても」「なら」の違いを理解し、使い分けられるようになる。	「新完全マスターN4文法」 オリジナル教材	予習と復習
		各コマにおける授業予定	と・ば・たら・ても・なら		
第56回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分への行為や他者への行為を言うことができるようになる。	「新完全マスターN4文法」 オリジナル教材	予習と復習
		各コマにおける授業予定	使役・受身・使役受身		
第57回	講義形式	授業を通じての到達目標	時間関係を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第1課 「～うちに」、「～間(に)」、「～てからでないと・～てからでなければ」、「～ところだ・ところ＋助詞」		
第58回	講義形式	授業を通じての到達目標	ある物や行為の関係を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第2課 「～とおりだ」、「～によって・～によっては」、「～たびに」、など		
第59回	講義形式	授業を通じての到達目標	比較を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第3課 「～くらいだ」、「～くらい・・・ない」、「～くらいなら」、「～に限る」		
第60回	講義形式	授業を通じての到達目標	対比を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第4課 「～に対して」、「～反面」、「～一方で」、など		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村絵、瀬野幸子	実務経験とその関連資格	【中村】2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

毎回、チェックテストを行う。テキストは『みんなの日本語I、II』、『新完全マスターN3』を使用し、文型の定着を図る。授業では口頭練習を多く取り入れ「話す・聞く」を中心に行い、宿題では正確に理解できているか記述問題で確認する。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、N3に合格する力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I　本冊(第2版)』『みんなの日本語II　本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』
参考図書:『みんなの日本語I　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I　第2版　書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II　第2版　書いて覚える文型練習帳』から抜粋。

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけではなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。普段の生活の中でもできるだけ日本語を使おうという気持ちを持ってください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第61回	講義形式	授業を通じての到達目標	理由や原因を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第5課 「～ためだ」、「～によって・～による」、「～から・～ことから」、など		
第62回	講義形式	授業を通じての到達目標	仮定条件を表す文法を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第6課 「～なら」、「～ては・～では」、「～さえ…ば・なら」、など		
第63回	講義形式	授業を通じての到達目標	他の人が聞いたことやうわさなどを他の人に伝える表現を学び、それらの構造を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第7課 「～ということだ」、「～と言われている」、「～とか」、など		
第64回	講義形式	授業を通じての到達目標	否定を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、説明できるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第8課 「～はずがない・～わけがない」、「～とは限らない」、「～わけではない・～のではない」		
第65回	講義形式	授業を通じての到達目標	希望を説明する表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第9課 「～てもらいたい・～ていただきたい・～てほしい」、「～させてほしい・～させてもらいたい・～させていただきたい」、「～といい・～ばいい・～たらいい」		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第66回	講義形式	授業を通じての到達目標	命令・禁止を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第10課 命令・禁止、「～こと、～べきだ・～べきではない」、「～たらどうか」		
第67回	講義形式	授業を通じての到達目標	自分の意志を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第11課 「～ことにする・～ことにしている」、「～ようにする・～ようにしている」、「～ようとする」、「～つもりだ」		
第68回	講義形式	授業を通じての到達目標	敬語を学び、敬語の体系を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	第12課 尊敬語、謙譲語、丁寧語		
第69回	講義形式	授業を通じての到達目標	助詞を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	A:いろいろな働きをする助詞		
第70回	講義形式	授業を通じての到達目標	助詞のような働きをする言葉を学び、それぞれの言葉の使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	B:助詞のような働きをする言葉 「～について」、「～に対して・～に対する」、「～によって」、など		
第71回	講義形式	授業を通じての到達目標	「こと」と「の」の使い方を学び、それぞれの違いを理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	C:「こと」「の」の使い方		
第72回	講義形式	授業を通じての到達目標	「よう」の使い方を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	D:「よう」のいろいろな使い方 「～(かの)ようだ・～のようだ・～かのように・～のように」、など		
第73回	講義形式	授業を通じての到達目標	「わけ」の使い方を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	E:「わけ」のいろいろな使い方 「～わけだ・～というわけだ」、「～わけにはいかない」、「～ないわけにはいかない」、など		
第74回	講義形式	授業を通じての到達目標	「ばかり」の使い方を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	F:「ばかり」のいろいろな使い方 「～ばかり」、「～てばかりいる」、「～ばかりでなく」、など		
第75回	講義形式	授業を通じての到達目標	「する」と「なる」を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	G:「する」「なる」の整理 「～する・～なる」、「～ことにする・～ことになる」、「～ようにする・～ようになる」、など		

2023　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	日本語学科(昼間部1．5年制)	科 目 区 分	基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	文法(中級)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	160 (8) 時間(単位)
対 象 学 年	1年	学期及び曜時限	後期	教室名	502教室
担 当 教 員	中村絵、瀬野幸子	実務経験とその関連資格	【中村】2013年3月に大学にて日本語教員養成課程を修了。その後、Universidad Espiritu Santo(エクアドル)において2年間、日本語を教えた。帰国後、大阪府立桃谷高等学校III部で半年間、英語を教えるかたわら外国籍の学生に対して日本語を教えていた。		

《授業科目における学習内容》

毎回、チェックテストを行う。テキストは『みんなの日本語I、II』、『新完全マスターN3』を使用し、文型の定着を図る。授業では口頭練習を多く取り入れ「話す・聞く」を中心に行い、宿題では正確に理解できているか記述問題で確認する。「聞く・話す・読む・書く」の4つの技能をバランスよく伸ばし、N3に合格する力を身につける。

《成績評価の方法と基準》

1. 試験:70%
2. 出席:20%
3. 平常点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

使用教材:『みんなの日本語I　本冊(第2版)』『みんなの日本語II　本冊(第2版)』『新完全マスターN4文法』『新完全マスターN3文法』
参考図書:『みんなの日本語I　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語II　翻訳・文法解説(第2版)』『みんなの日本語初級I　第2版　書いて覚える文型練習帳』『みんなの日本語初級II　第2版　書いて覚える文型練習帳』から抜粋。

《授業外における学習方法》

授業前:次の授業内容の語彙・文法を予習してください。
授業後:宿題をするだけではなく、文を声に出して読む練習もしましょう。授業の最初に前の課の毎回小テストをします。

《履修に当たっての留意点》

それぞれの授業の前と後に必ず予習と復習をしてください。授業では積極的に日本語を使いましょう。普段の生活の中でもできるだけ日本語を使おうという気持ちを持ってください。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第76回	講義形式	授業を通じての到達目標	「たら」「ば」「と」「なら」を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	H:「たら」「ば」「と」「なら」の特別な使い方 「～と…た」、「～も…ば～も…」、など		
第77回	講義形式	授業を通じての到達目標	副詞を学び理解し、それぞれの言葉の使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	I:後に決まった表現が来る副詞 「まったく～ない」、「すでに～た」、「少しずつ～」、など		
第78回	講義形式	授業を通じての到達目標	・動作の段階を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。 ・特徴、状態、様子を表す表現を学び、それぞれの使い方を理解し、適切に使うことができるようになる。	「新完全マスターN3文法」	予習と復習
		各コマにおける授業予定	J:動詞や名詞の意味を広げる文法形式 「～かける・～かけだ」、「～きる」、「～にくい」、など		
第79回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習(1)	使用教材から適宜抜粋	予習と復習
		各コマにおける授業予定	まとめの問題		
第80回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習(2)	使用教材から適宜抜粋	予習と復習
		各コマにおける授業予定	まとめの問題		